

第3回中東呼吸器症候群(MERS)対策に関する専門家会議概要 (平成29年4月26日)

当該専門家会議において、海外でのMERSに関する情報や研究班の研究報告等のMERSに関する最新の知見を踏まえ、以下のような検討を行った。

(1) MERSの発生状況

- 国内では、MERSの症例は報告されていない。
- 世界では、サウジアラビアからの報告が多く、報告の半数にヒトコブラクダへの曝露あるいはラクダの生ミルクの摂取が認められる。
- 航空機内でのMERS感染リスクの可能性が指摘されているものの、そのような事例の報告はない。
- MERSに限らず、帰国後に感染症を発症し、夜間救急など複数の医療機関を受診することがあることから、自治体を超えた連携が必要である。

(2) 研究班の報告

- 国内でMERSが発生した場合には、全症例について標準的な診療手順に基づき診療を行い、そのデータを一元的に分析することが、治療法の確立のためには重要である。
- 韓国では、医療機関における接触者リストを作成する際に、受診データを収集して接触者の特定に役立てていた。
- 一般医療機関の診療機能の底上げや、症例数が多くても対応可能な指揮系統の確立が求められる。

(3) 検討内容

- 診断が確定していない段階から感染予防策を開始することが大切である。
- 韓国での流行が終息し、ヒト-ヒト感染の経時的なリスクの増大はみられていない。現行の対応について見直しを行う。
- 国内でMERSが発生した場合には個人情報に配慮しつつ、情報共有を自治体間で広く行うことが重要である。